

## 第5学年 特別の教科 道徳学習指導案

1 主題名 おたがいのけんり (C、規則の尊重)  
(教材名:住みよいマンション 出典:生きる力5【日本文教出版】)

### 2 目標

それぞれに権利があり、その実現のためにそれぞれが義務を果たすことで集団や社会がよりよいものになることを理解し、自他の権利を大切に自らの義務を果たそうとする意欲を高める。

### 3 授業計画

#### 【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、休み時間、委員会活動などの活動がなければ、思い思いに自由に過ごしている。本を読んだり、絵を描いたり静かに過ごしている子のそばで、大声で話す子もいて、互いの様子に気づかないでいる。また、自分のことだけを考える言動も時々見られる。この教材を通してこれまでの自分の行動を振り返りながら、互いが気持ちよく過ごすためには、自分のやりたいことだけを主張するだけでなく、相手のやりたいことも考え、自分にはどのようなことができるか考えるきっかけになってほしい。

#### 〈こんな教材の魅力を〉【1時間完了】

- ・「静かな生活をする権利がある」と「ピアノを弾く権利がある」と主張するそれぞれの住人の思いが一見相反するように見えるが、ピアノを弾いている側の「きまりを守っている（時間を守っている）から迷惑をかけていない」という思いを知ることで、両者の言い分が全くの間違いでないことを知ることができる。
- ・両者の間に入った岡さんの立場で、両者の思いを考えることができ、それとの権利について客観的に考えることができる。



#### 〈こんな手立てで〉

- ・互いの権利を主張し合う場面と話し合っている場面を対比することで、両者の思いの変化に迫ることができるようする。
- ・両者の話を聞いた岡さんの思いに焦点化することで、きまりを守る上で、互いの権利を大切にすることが必要であることに気付かせる。

#### 【学習後の児童に期待する姿】

- ・自分だけでなく、相手にも権利があることを再確認する。
- ・権利を主張するだけでなく、みんなが気持ちよく過ごせるためにはどうしたらよいか考えることで、みんなが過ごしやすい学級になることに気付く。

### 4 本時の指導

#### (1) 指導の構想

導入では、身近な業間の時間を取り上げ「業間での権利」について聞く。みんなが楽しめる時間であることをおさえてからめあてについて聞く。範読後に、二人の主張はルールを守っているのに起きていることに注目をさせる。次に、二人の話し合う前と後を比べることで、互いが相手のことも考えながら話し合ったことに気付かせる。そこから「岡さんが新たに発見したこと」を考えることで、互いの権利を大切にするには、権利を主張しあうのではなく、互いのことを考えて、どんなことをしたらよいか、何ができるかを考えることの大切さに気付かせたい。

#### (2) 準備 (教師) 揃絵、(児童) 教科書、道徳ノート

#### (3) 学習過程

学習活動(時間)	予想される児童の反応			※教師の支援
1 めあてを確認し、大事な思いについて考える。 (5)	めあて お互いのけんりを大切にするために大事な思いは何だろう。			※業間での権利を例にあげて考えることで、自分たちの身近なこととしてとらえられるようにする。
2 教材を読む。 (5)				

3 登場人物の心情をとらえる。(22)	二人の言葉を聞いて岡さんはどう思ったのだろう。			
	・もめごとはやめてほしい。	・二人とも言っていることは間違っていない。どうしたらしいのか。	・ルールを決めたのにどうして。	※二人の間でどうしてよいか困っている岡さんの気持ちに共感させることで、子どもの問題意識を深める。
	けんりを主張する二人と、話し合いを終えた二人はなにが変わったのだろう。			
5 互いの権利を大切にするために大事な思いを考える。(8)	・「自分だけ」から「互いのこと」を考えるようになった。 <考えしたこと> 「ピアノの位置を変える」「毛布を引く」「時間を考える」	・どうすればお互いが気持ちよく過ごせるか、二人で一生懸命考えるようになった。	・どうすればお互いに気持ちよく過ごせるか二人で考えただけでなく、実際に行動した。そのことで二人の関係がよくなつた。	※二つの場面を比較することで、始めは、自分の主張を通していただけだが、後半はお互いが相手のことを思って考えていることに気付かせる。 ※挿絵の表情に注目することで、嫌々考えているのではなく、相手のことを考えて、気持ちよく話し合いをしていることに気付かせる。
	トラブルが解決したとき岡さんはどんなことを発見したのかな。			
	・ルールをつくっただけではダメだ。 ・自分でなく、相手のことも考える。	・お互いに話を聞くことが大切。 ・どちらかがまんをすればよいというわけではない。 ・相手のことも考えて、自分に何ができるか考える。	・自分の事だけでなく相手のことも考えどうすればよいか考えて、動くことが大切。 ・互いの「～したい」という権利と、「～しなければいけない」というバランスを考えることが大切。これができると、互いによい関係になれる。	※ノートに記入したり、ペアで話し合ったりすることで、全員が考えていけるようにする。 ※「ルールだけを作ってもだめってどういうこと」と切り返すことで相手の権利を大切にするために自分ができること(義務)を考えていることに気付かせる。
6 振り返り(5)	お互いの権利を大切にするために大事な思いは何だろう。			
	・自分のことだけでなく相手のことも考える。	・「～したい」という気持ちと「～しなければならない」のバランスを考える。どちらもバランスよく。	・自分の権利だけでなく相手の権利も考えながらみんなでよりよい集団をつくろうと考えて行動する。	・主発問で考え合ったことをもとに考える時間を設けることで、めあてにつなげて考えられるようにする。
(4) 評価	※「今日の授業で大切なことを振り返ることで、これから的生活につなげていけるようにする。			
	・権利を主張するだけでなく、みんなが気持ちよく過ごすためにはどのような思いが大切かを考えることで、みんなが過ごしやすい社会にするために自分にできる義務を果たそうとする意欲を高めることができたか。			